

研修参加報告書

令和4年8月30日

会派名 江南クラブ
会派代表者 牧野 圭祐

(参加者：尾関 昭)

研修参加の結果について、次のとおり報告します。

年月日	令和4年8月25日(木)～26日(金)
研修時間	午後1時～午後5時、午前9時25分～午後2時10分
研修場所	全国市町村国際文化研修所
研修内容	令和4年度 市町村議会議員研修 「住民とのコミュニケーション～対話と発信力の向上～」 (講師：本間 正人 京都芸術大学教授、特定非営利活動法人学習学協会代表理事)

研 修 参 加 報 告 書

年月日	令和4年8月25日（木）～26日（金）
研修時間	午後1時～午後5時、午前9時25分～午後2時10分
研修場所	全国市町村国際文化研修所
研修内容	令和4年度 市町村議会議員研修 「住民とのコミュニケーション～対話と発信力の向上～」 (講師：本間 正人 京都芸術大学教授、特定非営利活動法人学習学協会代表理事)
<p>■目的</p> <p>住民との対話、そして受発信力を今まで以上にさらに向上させることにより、地域の問題を的確に把握し、またそれを如何に行政運営に活かしていけるかを学ぶ。</p>	
<p>■内容</p> <p>00. 「教育学」から「学習学」へ 最終学歴ではなく、最新学習歴を更新し続けることの重要性。 ・最新学習歴の更新こそが人生を豊かにする ・人間は「学ぶ存在」 ・学習する本能 ・いつでもどこでも「学べる＝探求できる」 ・興味関心が喚起された楽しい学びは後々まで残るもの</p> <p>01. コミュニケーションの機能 人間関係の影響度は、内容を示す「言語コミュニケーション」より、伝え方を表す「非言語コミュニケーション」のほうが圧倒的に大きく、同時に信頼関係の構築には、傾聴・言行一致・守秘義務が欠かせない。 ・家庭では …ハウスルールの設定 ・テクニック…目をつむって1つの機能を止めて、他（の機能）を深める 相手に惑わされないように、同時に喋る、発表する ・（孫子の兵法） 彼を知り、己を知れば、百戦殆うからず</p> <p>02. 言語コミュニケーションのポイント 言語は多義性（あいまいさ）が発生しやすい。具体性（分かりやすさ）が要点で、表、グラフ、イラスト、絵、写真、動画、実演等、相手の立場に立った分かりやすい指示と予告、相手に合わせた表現に主眼を置く。 ・多義的に受けとめられないような伝え方 ・信頼を構築する（3要素） 1. 聴くこと 2. 言行一致 3. 守秘義務 ・「ブラインド・ウォーク」の実例より ○何も問題がないときにも声をかけること ○ビジョンの共有をすること (現状：今の位置・立ち位置、目標：何処へ行くのか・向かうのか)</p>	

03. コーチングの基本的な考え方

「教え込む」(ティーチング)ではなく、「引き出す」のがコーチングである。いま何処にいるのか【現状】⇒ 何処へ向かうのか、何を目指しているのか。どこに向かっているのか【目標】をはっきりさせ伝達する。

04. 傾聴のスキル

- ・「共感欲求」と対峙する「有能性の証明欲求」
- ・アクティブ リスニングの3要素とは… あいづち、うなづき、くりかえし
- ・聴くチカラこそが人間力。

21世紀のスタイルとは、①創造力 ②人間関係 ③感動と発見であり、ロボット(AI)にできない事を求めていく時代となる。

05. 質問のスキル「ヒーロー・インタビュー」の応用

心と心の通い合う体験の共有とグッドニュース(好機)の循環でヒーローから具体的な話を引き出す。

06. やる気について

- ・啐啄同機(そったくどうき)とは
- ・市当局とのコミュニケーション ○若手の職員との接点は?
○若手の職員の声に耳を傾ける
- ・あなたが「やる気」を出すためには、自らどんなことができるのか?
→ヨットは逆風(向かい風)でも前に進む。

07. ダイアログとは

Dia + logus	・聴き合うこと
向かい合う ログス	・否定しないこと
交流する 論理	・多様性を楽しむこと
	・自分の意見を言うこと(*)

(*) 苦手意識がある場合は、練習不足。

→自然とできるようになったのは場数を踏んだだけのこと

08. ストレスマネジメントのポイントは

5つの原則の把握

- | | |
|-----------|-----------------|
| 1) 全体性の回復 | 自己軌道修正 |
| 2) カタルシス | 内側にためこんだものをはき出す |
| 3) 非日常性 | イベント性 |
| 4) 創作活動 | 一心不乱に、没頭できること |
| 5) 洞窟願望 | 男性側に強い傾向 |

■所感

議員として住民とのコミュニケーションのあり方については、様々なコーチングの手法を応用しながら、共通点を見つけ、かつ施策等へのビジョンに繋げていくこと。また相違点については、お互いに多様性を尊重しつつ、先の共通点を踏まえ、情報の共有化によって良好な信頼関係を構築することが大切であると感じ再認識した。